

◇ 腹部超音波

腹部に超音波を当てて、腹腔内の臓器から返ってくる反射波（エコー）を受信し、映像化します。

肝臓、胆嚢、膵臓、脾臓、腎臓、大動脈の状態を知ることができます。

【主な所見】

脂肪肝	肥満、アルコール多飲等が原因といわれていますが、最近は飲酒習慣の無い方にも生じる非アルコール性脂肪肝も増えてきています。生活習慣改善によって解消されることも多いです。
肝嚢胞	袋状の水疱のようなものです。高齢になるにつれて多くなる傾向にあります。
肝血管腫	良性の肝腫瘍です。血管の塊のようなもので、単発性や多発性、大きさも大小様々ですが、定期的に超音波検査を受け経過観察をする必要があります。
肝腫瘍	肝臓にできる腫瘍です。悪性の場合、主に肝臓から発生したもの（肝細胞がん）と、他の臓器から転移したもの（転移性肝がん）に大別されます。
胆嚢ポリープ	多くはコレステロールポリープといって、脂肪でできているイボのようなものです。多発することも多く、大きさも大小様々ですが、10mmを超えるものは胆嚢がんとの区別が重要ですので、精密検査が必要となります。
胆嚢結石	胆嚢内に生じた石で、無症状であることが多く、健康診断で偶発的に発見されることもあります。
膵嚢胞	膵臓にできる、袋状の水疱のようなものです。良性の膵嚢胞であれば問題はありませんが、超音波では判断が難しいことが多く、精密検査を必要とすることがあります。中には手術を必要とすることもありますので、要精密検査となった場合には、必ず受診してください。

膵臓描出不能	膵臓は胃の裏側にあるため、肥満、ガスなどにより、みえにくいことがあります。超音波検査以外での検査をおすすめします。
副脾	脾臓の周辺に存在し、脾臓と同じ働きをする1~2cm大のできもののことを副脾と呼びます。特に治療の必要はありません。
腎結石	胆石と同じように、無症状の場合や痛みを伴う場合など症状は様々で、特に症状がなければ経過観察します。しかし痛みがある場合、また水腎症といわれる合併症のある場合等は、泌尿器科で精密検査が必要となります。
腎嚢胞	袋状の水疱のようなものです。痛みを感じたりすることはなく、健診で偶発的に発見することもあります。
腎血管筋脂肪腫	腎臓の良性腫瘍で、定期的な検査が必要です。判定・指示を確認してください。
腹部大動脈瘤	大動脈が正常の太さの1.5倍以上に瘤(コブ)状に膨らんだもので、破裂すると致命的ですので、判定・指示を確認してください。

◇ 頸動脈超音波（オプション検査）

頸部の動脈に超音波をあて、血管の中を観察します。動脈硬化があると、血管がつまったり狭くなったりします。簡便で視覚的に動脈硬化の診断が出来ます。

【主な所見】

頸部プラーク	頸動脈壁が部分的に肥厚しているところをプラークといいます。このプラークが破綻すると脳梗塞などを引き起こす可能性があります。
--------	---